

依存症者、仏画家と共同制作

絵画描き 自立へ一助



NPOがチャリティー展

アルコールや薬物、ギャンブル依存症の人たちの社会的自立を支援するNPO法人「ブルー・スカイ」(鹿児島市、榮時弘理事長)

は同市のオロシティーホールで「現代国際巨匠絵画展」を開いている。30日まで。絵画展は同法人3周年記念チャリティー企画。

NPO法人ブルー・スカイの利用者らと作品を共同制作するアラン・ボノールさん(右手前)は27日、鹿児島市のオロシティーホール

27日はフランスの画家、アラン・ボノールさん(75)と絵画を共同制作し、NPO利用者ら約35人が参加した。

縦1.5メートル、横1.5メートルの画用紙に桜島や飛行機などを描いた後、ボノールさんが女性の顔を即興で描いて完成させた。鮮やかなレモンを描いた楠元ひとみさん(48)は「とてもいい作品に仕上がった」と話した。

絵画展ではボノールさんや、ピカソ、藤田嗣

治、ダウン症の書家・金澤翔子さんの作品など約120点を展示。絵画の売り上げの一部は熊本地震や口永良部島噴火災害の義援金、ミャンマーの学校建設の寄付金に活用する。入場無料。(福岡留梓)